

# つくり手の言葉から 工芸を考える

東京国立近代美術館 工芸課長

## 唐澤 昌宏先生

愛知県立芸術大学大学院美術研究科修了。愛知県陶磁美術館学芸員を経て、2003年に東京国立近代美術館主任研究員、2010年より東京国立近代美術館工芸課長として、近現代の工芸及びデザインについての多くの展覧会に携わってきました。近年では国の諮問委員として、日本の文化行政にも深く関わっています。著書に『窯別ガイド日本のやきもの瀬戸』（淡交社）。主な企画・監修に「人間国宝の日常のうつわ—もう一つの富本憲吉」「青磁を極める—岡部嶺男展」「現代工芸への視点—茶事をめぐって」「青磁のいま—受け継がれた技と美南宋から現代まで」など。

セミナーではこれらのご経験を踏まえ、つくり手（工芸家・創造者）の言葉を通して、とくに工芸の立ち位置から創作や表現に関わる活動と教育（鑑賞）についてお話いただき、創造者と鑑賞者、さらには美術館との連携を考えます。

会場 広島大学大学院教育学研究科B101

主催／科学研究費\_基盤研究(C)「陶磁器における銀泥・金・プラチナ

色絵具顔料を用いた装飾表現の研究」（研究代表者\_井戸川豊）

共催／広島大学教育ビジョン研究センター (EVRI)

参加申し込み先 EVRI : [evri-info@hiroshima-u.ac.jp](mailto:evri-info@hiroshima-u.ac.jp) / 082-424-5265

当日参加も可能です。資料準備の都合上、事前にお知らせいただくと幸いです。  
右のQRコードよりお申し込みしていただくことができます。QRコードはこちら →



2019

2.1 Fri.

18:00 - 20:00